# 自然体験活動の講習会に参加して

人間科学部　人間科学科2年　人間科学専門ゼミナールⅠ

2021年9月17日、人間科学専門ゼミナールⅠ（渡部かなえ2年生ゼミ）は、海辺の自然体験活動の講習（学外実習）を葉山海岸で行いました。たくさんの学びがありました。リフレクション（振り返り学習）で学生が書いた感想文（抜粋）です。

……

全員、大きなけがもなく、安全に活動ができてよかったと思った。自然を相手にするため、危険な事柄も多いが、その分楽しく貴重な体験ができてよかったと思う。また、海を知ることで、それへの配慮につながると思った。例えば、海の生き物の観察をした後、元いた場所に返すことは、次に海に遊びに来た時にもいかせることであり、海を大切にすることであると思う。また、環境について考える時間が改めて大事だと思った。途中から天気が良くなり、海がとても綺麗だと感じた。この海を守るため、自分の身近なところでできる環境への配慮を心がけていきたいと考えた。（K.K.）

自然観察の原則「ロー・インパクト」（生き物や環境に与える影響は最小限に）を守って活動。
指導は、認定NPO法人オーシャン・ファミリー代表、海野義明さん（海パパ：写真の右端）。

今回の葉山での自然体験活動を通して1番の収穫はゼミ生とたくさん話すことが出来たことだと思う。今までのゼミ活動では何かを一人で行うことが多かったが、この自然体験活動では誰かと一緒に生き物を捕まえたり、誰かと一緒に漂着物を使ってアートを作ったりなど、人と一緒に行うことで仲良くもなれ、より良い関係になれることが分かった。また、この年齢でたくさん生き物を捕まえたり、捕まえた生き物を観察したり、などはとても貴重なことであると思った。外に出て、広々とした空間で海が広がっていることによってとても解放感があった。そのような所から自然のパワーを感じることが出来た。とても楽しい自然体験活動を行うことができた。とても楽しかった。（A.M.）

私は生き物が本当に苦手なので、海の生き物を捕まえる時は嫌だなと思ったけれど、実際やってみると、ヤドカリや魚を捕まえるのに夢中になり、少し楽しいなと思いました。どうしても素手では触れなかったけれど、海の生き物を間近で見て知識を教えてもらい、よい経験だったなと思いました。海辺でゴミを拾った時は、たくさんのごみがあることに驚きました。ゴミばかりに目が行ってしまうほどゴミがたくさんあって、海をきれいにするのには時間がかかるなと思いました。ビーチ

海辺のアート（3名の合作）

クリーンの活動に興味を持ちました。私も海をきれいにするのに何か貢献できればいいなと思いました。海で拾ったもので作品を作るのはすごくおもしろかったです。何か実際にキャラクターなど作れるのではないかと思いました。活動全体を振り返って、海はいいなと思いました。海というと津波などの影響で怖いイメージがあったけれど、今回の体験で少し印象が変わりました。（M.T.）

2年生からゼミにはいって初めての活動ということもあり、やる前は少し不安や緊張はあった。しかし、やってみて一番に思ったことは充実した海辺の自然体験活動だったことです。最初に行った生き物の観察においてはこんなにも夢中になるとは正直思っていなかったです。様々な生き物をみつけていくうちにどんどん楽しくなっていきました。海辺の散策では普段話したことない人とも話すことができた。海辺をいつもこんなにもじっくり見ることはなかったが、じっくり見てみると様々な発見があり面白かった。時間もあっという間に感じ、それは楽しめている証拠なのかと思いました。活動を振り返ってみると活動を行う前よりもゼミの雰囲気がよくなったと感じた。今回の海辺の自然体験活動は自分にとってとてもいい機会になりました。（T．S.）

普段、海に行く機会があっても、生き物を観察することや人工物が多く漂流していることに目を向けることはほとんどありませんでした。海には漂流物が多くあり、その中で目立つのは、自然のものよりも人工的に作られたものでした。これは生き物の生存につながるものです。実際に、ビニール袋をエサだと間違え飲み込んでしまうことや、亀の鼻にストローが刺さってしまったりと被害が出ています。このように私たち人間が自然を壊してしまっているのです。今回、生き物の観察をしましたが、その生き物たちが人間によりいなくなってしまう可能性があるのです。自然豊かな環境にするためにも、私たち人間がもっと自然のことを考えなければならないのだと改めて思いました。今回の実習で、生き物について学ぶことができました。（M.T.）

カニ、ヤドカリ、エビ、ギンポ、etc.・・・いろいろな生き物に出会えました。

環境問題についてはニュースや授業などで情報として知っているだけだった。それに対する臨場感がなかったとも言える。しかし実際に目で見ることによって、ことの深刻さが分かったような気がする。フィールドワークが重要なことが身体で分かった。始めに海の生き物を捕まえて観察するというのも、海の生き物と増えあうことでそれを身近に感じるようになり、これからの海洋汚染への向き合い方に変化を促すという目的もあったのではないかと思った。翌日、足や腰が筋肉痛になった。普段は平たくてかたいアスファルトの上を歩いているので、やわらかくて変化のしやすい浜辺を歩くのに体が慣れていなかったのではないかと考えた。高校生の時サッカー部に入っていたのだ

浜に漂着した、海の動物、海の植物、山や森から来たもの、人工物　からSDGｓを考える

が、顧問の先生が浜辺でサッカーをするとよい練習になるということを言っていた覚えがある。それも同じ理由ではないかと思った。海の生き物を捕まえるのは本当に大変だった。どれも逃げるのが非常に速いため、姿を見つけたとしてもすぐに見失ってしまっていた。結局自分が捕まえることができた海の生き物はゼロだった。ほかの人はいろいろなものを捕まえており、どうやって捕まえることができたのか気になった。（R.K.）

今までは海に行っても遊びがメインであり、海を細かく見たことも考えたこともないが、改めて海周辺を見ることで様々なことを学ぶことができた。化石や海によって変化した貝などは、ただ見れば石とか貝だが、そこに知識が付け加えられたことで、海についても自然環境の変化などが理解することができた。浜辺周辺に落ちているごみなども、なぜここにあるのか、どのようにしたら減らすことができるのか、深く考えることで、今後、生きていく中での学びにつながったと思った。自然物や人工物を観察することで、それらのものについての知識を身に着けることもできた。ただ見て考えて学んだだけでなく、指導法や安全管理などを話を聞きながらまなぶことができた。（T.O.）

自分は瀬戸内海の海しか知らないので、太平洋が楽しみだった。でも、海には危険性が多いので、その点が心配だった。（T.N.）

＊海に行く前の事前学習でのコメント

浜で海を見ながら講義。講師は海パパ（写真の左端）